

| | | | |
|------------|--|---------------------------------------|--------------------------|
| 授業コード | 520107 | オムニバス | |
| 科目名 | ケア空間体験実習 (Field Experience in Space for Care) | | |
| 配当学年 | 1 | 単位数 | 1 |
| 年度学期 | 2019年度 秋学期 | 曜日時限 | 集中講義 |
| 対象学科 | 建_工-1 | コース | |
| 科目区分 | 専門科目 | 必選の別 | 選択科目 |
| 担当者 | 勝木 祐仁、板橋 春夫、野口 祐子、工藤 瑠美 | | |
| 教室 | | | |
| 実務家教員担当授業 | 担当教員の野口祐子は、福祉の実務経験を持ち、福祉施設ではより実践的な実習指導が可能である。 | | |
| 授業の目的と進め方 | 健康や生活上の課題を持つ人の生活空間（施設や住まい）に身をおき、その人やその暮らしに関わる様々な人と直接向き合いながら、その人の心身の状態、思い、生活や生活空間のありようを、その人の立場で理解する態度を養う。 | | |
| 達成目標 1 | 人の生活の場において、人と向き合いながら学ぶ時の態度・マナーを身につけ、適切な行動がとれる。【15%】 | | |
| 達成目標 2 | コミュニケーションの大切さに気づき、具体的な場面における適切なコミュニケーションのとり方を自分なりに模索できる。【20%】 | | |
| 達成目標 3 | 人それぞれの社会的な背景や生活状態、ニーズ、人生観、価値観などの多様性を理解できる。【20%】 | | |
| 達成目標 4 | 実習の対象者の暮らしに関わる様々な人の役割、関わり方、連携のあり方について理解できる。【15%】 | | |
| 達成目標 5 | 実習の対象者の暮らしにおける生活空間の役割や地域社会における位置付けについて目を向け、考察できる。【15%】 | | |
| 達成目標 6 | 実習での体験のリフレクション（振り返り）を通じて、自分の人との向き合い方、人や暮らしの場の捉え方を客観的に捉えることができる。【15%】 | | |
| 達成目標 7 | | | |
| アクティブラーニング | | | |
| ディスカッション | <input type="checkbox"/> | ディベート | <input type="checkbox"/> |
| | | グループワーク | <input type="checkbox"/> |
| 実習 | <input type="checkbox"/> | フィールドワーク | <input type="checkbox"/> |
| その他課題解決型学習 | | | |
| 修得する知識・技能 | 関与度 | 修得する知識・技能 | 関与度 |
| 専門的知識・技能 | <input type="checkbox"/> | 実践的技術力 | <input type="checkbox"/> |
| | | 豊かな人間性と社会性 | ◎ |
| | 授業計画 | 授業時間外課題（予習および復習を含む） | |
| 第1回 | オリエンテーション（1）実習の目的・進め方・達成目標・ルール | 実習の手引きを熟読しておく。（1時間） | |
| 第2回 | オリエンテーション（2）実習対象者とその生活空間 | 実習を行う地域について調べておく。（1時間） | |
| 第3回 | オリエンテーション（3）実習対象者と関わる様々な人々 | 健康や生活上の課題を持つ人を支援する職種について調べておく。（1時間） | |
| 第4回 | オリエンテーション（4）コミュニケーションの意義・種類・方法 | コミュニケーションについてこれまでに学んだことを整理しておく。（1時間） | |
| 第5回 | 実習1日目 人と空間に慣れる | 実習中の自分の振る舞いや態度について客観的に把握しておく。（1時間） | |
| 第6回 | 実習1日目 コミュニケーションに慣れる | 実習中に体験したコミュニケーションについて客観的に把握しておく。（1時間） | |
| 第7回 | 実習1日目 関係する様々な人と向き合う | 実習中に関わった人の、対象者との関係・役割・関わ | |

| | | |
|------|---------------------|--|
| | | り方について把握しておく。(1時間) |
| 第8回 | 実習1日目 1日のふり返り | 1日の体験をふり返り、自分の課題と成果を把握し、翌日の目標を立てておく。(1時間) |
| 第9回 | 実習2日目 コミュニケーションを深める | 実習中に体験したコミュニケーションについて客観的に把握しておく。(1時間) |
| 第10回 | 実習2日目 生活空間に寄りそう | 対象者の立場にたって生活空間のあり方を捉えられたか確認しておく。(1時間) |
| 第11回 | 実習2日目 思いに寄りそう | 対象者の思いを捉えられたか確認しておく。(1時間) |
| 第12回 | 実習2日目 1日のふり返り | 1日の体験をふり返り、自分の課題と成果を把握しておく。(1時間) |
| 第13回 | リフレクション(個人) | グループでの討議における自身の果たした役割や態度について客観的に把握しておく。(1時間) |
| 第14回 | リフレクション(グループ) | 実習の体験をふり返り、自分の課題と成果を把握し、今後の目標をたてる。(1時間) |

| | |
|--------------------------|---|
| 評価方法と基準 | 一日ごとのふり返りの記録(30%)、グループでのリフレクションへの貢献(10%)、最終レポート(60%) |
| テキスト | 特になし。 |
| 参考図書 | 埼玉県立大学『IPWを学ぶ—利用者中心の保健医療福祉連携』中央法規出版(2009)【ISBN:978-4805848685】 |
| 科目の位置づけ (学習・教育目標との対応) | 「ヒューマンケアと生活空間」(1年秋)で学んだ「ヒューマンケア」について、人の暮らしの現場で体験的に理解する。「協働デザインの手法」(2年秋)、「福祉空間の設計」(2年秋)、「専門職連携実習」(3年夏期集中)で連携と協働を学ぶ上での基礎的な態度と認識を養う。 |
| 履修登録前の準備 | 「ヒューマンケアと生活空間」(1年秋)で学んだ「ヒューマンケア」について復習しておく。 |